

報 告

第 27 回日本義肢装具学会学術大会

北海道工業大学大学院 工学研究科 二塚 敏史

1. はじめに

平成 23 年度 10 月 22 日(土) 23 日(日) の 2 日間、東京都江東区有明の TFT ビルにて開催された。国際医療福祉大学大学院教授の山本澄子先生が大会長となった本大会のテーマ「新たな社会への対応を考える」で行われた。

2. 学術大会内容

今回の会場は、1 日目は第 1 から第 4 会場まで、2 日目は第 1 から第 5 会場までであった。第 1、2 会場は、TFT ビル西館 1 階で行われ、第 2 から第 5 会場までは TFT ビル東館 9 階で行われた。

第 1 会場では、大会長講演、特別企画、教育講演、特別講演などが行われていた。第 2 から第 4 会場は、装具、義手、スポーツ用義足、車いす・座位保持、生活支援などの演題発表が行われた。

今回は、当初予定されていた海外講師による招待講演は残念ながら中止となりましたが、特別企画として見木太郎先生他による「災害地域での義肢装具の役割」と題して、被災されながら被災地にて義肢装具士として活躍された方々の報告をしていた。今回の講演で一般人として支援を行ってだけでなく、義肢装具士としてどう支援したらいいか考える貴重なものであった。

ランチョンセミナーは、インターリハ株式会社の菅野洋平先生の「モーションキャプチャシステムの最前線 ―臨床からヴァーチャルリアリティまで―」と題した講演だった。動作解析における最新機器の性能紹介や計測紹介など、これからの動作解析の可能性について知ることができるものだった。一方、アル

ケア株式会社共催で、宗田大先生の「変形性膝関節症に対する装具療法の効果について ―日整会プロジェクト報告―」の講演は、既製品のものでの長期使用に効果があるのかどうかや、どうしたらより良い効果を出せるかなどの報告だった。また、教育講演として「事例から学ぶ福祉用具の適合支援」は、近年開発された高機能の義肢装具や福祉用具を正しく処方し、適合するためにエンジニアである市川洵先生、関川伸哉先生による講演だった。

「いす・座位保持」のセッションでは、これからの高齢社会に必要なになっていく車いすなどの工夫や開発の報告を、それぞれの分野において活躍されている先生方の講演でした。その一つとして、松田靖史氏他による「共通規格化を試みた車いす『へパイストス』の開発」の報告は、車いすの共通規格化についての講演だった。車いすのパーツは各メーカーにより異なっており規格化がされておらず、その調整方法についてもバラバラである。共通規格のパーツを使用すれば、メーカー間での互換性が増え、それぞれのパーツに強いメーカーのものを組み合わせが可能になるなど、車いすに様々な可能性が増えていけるものがあった。

他にもこのセッションの先生方には、車いすユーザーの安全や健康を考えたものもあり、先生方のユーザーに対する思いが、とても感じられたものであった。

「スポーツ義足他」のセッションにおいては、沖野敦郎氏他による「スポーツ義足用部品の開発～運動に適した小児用の 2way 下腿義足の製作～」は、世界でも数が少ない小児用の義肢パーツで、走運動に適したものの開発報告だった。通常スポーツ用の足部の疾走用板バネは、進行方向のみの移動を目的としていた。しかし、小児は前後左右あらゆる方向に移動すると予想される。そこで、小児用板バネの先端にスプリットを入れ、左右方向への移動を容易に

北海道工業大学大学院 工学研究科

〒 006-8585 札幌市手稲区前田 7 条 15-4-1

していた。また、著しい身長の変化に伴い、義足の板バネの長さを±15mm 調整できるように義足長スライドコネクタを開発・使用していた。

保護者からの感謝の言葉があり、使用する小児だけでなく、その家族にも喜びを与えるものであると感じられる講演だった。

このセッションでは、他にもスポーツ用の義足に対する開発があり、これからのスポーツ用義足が充実していくのではないかと思える講演だった。

学術大会の最後の企画として、特別企画2「かつこよさへの挑戦ー義肢装具福祉用具ユーザーのファッションショー」が行われた。生活をもっと楽しくという観点から、義肢装具福祉用具ユーザーさんが自分の本当に着たい服を選び、モデルになっていた。ファッションショーは、皆さんとてもお似合いで、かわいいものやかっこいい服装を着こなしていた。

今回の学会では、そのテーマどおりに新しいニーズへの対応を考えるものが多く、これから多くの人達に義肢装具、福祉用具を使用してもらっていければいいと思えるものが報告がされていた。

3. 商業展示

第1、2会場と同じTFTビル西館1階のフロアにあり、各企業はブースにて商品説明やプレゼンテーショ

ンを行っていた。企業展示にて東北物産店が開かれ、東北地方の企業の方々が復興支援のために活動をしていた。

動作解析装置のzebrisFDM-Tトレッドミル・システムが展示されていた。これは足圧システムをベルト面下に配置し、ランニング及びウォーキング時のダイナミックな運動から解析できる機器である。運動時中心位置、中心位置の移動距離、歩行速度、速度可変性などを計測でき、液晶画面に運動時の各種情報をリアルタイム表示ができるものであった。これは、これからの研究の幅を広げることのできるものだった。

4. おわりに

今回の学術大会で、各専門分野の方々の講演内容を聞き、視野を広くすることができた。また、これからいろいろな人達が求めるものをあげられる様にしていきたいと感じられる学術大会だった。

最後に2日間にわたる学会において数多くの人たちがスタッフとしてご協力して下さったおかげで、非常に充実した時間を過ごさせて頂くことができた。第27回日本義肢装具学術の参加してくださったスタッフや先生方に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。